

学びの杜通信

第8号 平成27年1月9日発行



新年明けましておめでとうございます。教職員の皆さんは、それぞれが「この1年を実りある年にしよう」と新たな気持ちで新年を迎えられたことと思います。

私も毎年、元旦に初日の出を自宅から拝みながら「今年もいい年になりますように」と願います。さて、皆さんは小泉八雲（こいずみやくも）という人をご存じでしょうか。彼の本名はラフカディオ・ハーンといひます。アメリカの雑誌記者で世界のいろいろな国の民俗学を調査していたようです。1890（明治23）年に来日し、島根県の松江尋常中学校と尋常師範学校の英語教師になりました。武家の屋敷を借りて住みましたが、朝方になり、屋敷の塀の向こう側で人々がガヤガヤ言っているのに気づき、塀の外をのぞいてみると村の人々が川の水でうがいをしたり、顔を洗ったりしていました。そして、太陽が昇ってくると太陽に向かって「今日も一日お願いします」と言って、手をパチパチと打ってお祈りをしました。彼はこの様子を見て「こんなすばらしい国は今まで見たことがない。」と感動し、やがて、小泉セツという女性と結婚し、小泉八雲という名前で日本に帰化しました。

彼は随筆の中に「日本の女性はどんなつらいことがあっても美しいほほえみを忘れない」と書いているそうです。彼は太陽からの恵みに感謝する日本人の生き方やつらいことに立ち向かっていく日本の女性のあり方に心を奪われていたようです。昔は当然だったお日様に対する感謝の気持ちを私たちは忘れていたかも知れません。

昨年の初任者研修の「とちぎ海浜自然の家における宿泊研修」に参加し、朝の4時半頃、水平線から昇ってくる太陽に向かって「いつもありがとうございます。今日も一日よろしくお願いします」と拝んだことを思い出しました。

かつて日本人が持っていた豊かな心や感謝する心を私たちも持ち続けていきたいものです。

本年もよろしく願い申し上げます。

栃木県総合教育センター所長 長野 誠

栃木県教育研究発表大会の参加申込みについて **広げます**

平成26年度栃木県教育研究発表大会〔1月30日（金）、31日（土）実施〕の参加申込みを受け付けています。第1日午前的川泰宣先生による記念講演「この国とこの星と子どもたち」に続き、2日間で計18の部会を開催します。部会内容の詳細については、第二次案内とホームページに掲載しております。参加を希望される方は、ホームページよりお申し込みください。定員に余裕がある部会は引き続き当日まで受け付けますが、1月15日（木）までにお申し込みいただければ幸いです。



<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/kensyu/h26-kenkyu/>



【問合せ先】栃木県教育研究発表大会実行委員会事務局（研究調査部 TEL 028-665-7204）

「学びの杜の公開講座」の御案内 **支えます**

「学びたいあなたへ 大人の学びを応援!! 親子で楽しむ!!」を合い言葉に、当センター職員の専門性や施設・設備を生かした講座や関係機関と連携した講座を提供し、県民の皆様の多様な学びを支援するとともに、生涯学習社会に生きる人材の育成を図ります。

7月に続き、今年度2回目の開催となります。多数の御参加をお待ちしております。

昨年度の様子



今年度第1回の様子



【期 日】平成27年2月7日（土）

【実施講座】

午前の部（9：30～11：30）	午後の部（13：30～15：30）
①栃木県の立体地図を作ろう	④親子プチ野球教室
②タマネギの皮で草木染めをしよう	⑤親子鉄道講座
③エコクラフト手芸に挑戦しよう	⑥プログラムでロボットを動かそう

※事前の参加申込みが必要となります。

※広報・募集は1月中旬から行います。詳細は、チラシまたはホームページから御確認ください。

【問合せ先】生涯学習部（TEL：028-665-7206）

校内支援体制研修（小学校・中学校・高等学校・4日間）の報告 **育てます**

教育相談部では、各学校における校内支援体制の整備や組織的対応の推進において中心的な役割を担う教員としての資質向上を図るため、平成23年度から全校種を対象に5年間の計画で、校内支援体制研修を実施しています。今年度は103校の先生が受講されました。

研修の後半では、受講者自身が校内支援体制づくりの推進者となり、自分の勤務する学校での実践を行いました。それらをもとにした研究協議では、どの先生も熱心に自らの学校の取組や課題についての意見交換を行いました。

受講者の感想

- 校内支援体制を作っていく推進者として、まず、自分が積極的に児童や同僚に関わっていく姿勢が大切だと思います。悩んだり、苦労したりすることもあります。周りの仲間を信じながらチーム支援を行うことで、やるべき課題が自ずと見えてくると思います。（小学校）
- チーム支援は、生徒の困り感、不安感を取り除くためにも、とても有効です。そのチーム支援にとって大切なのは「先生の和」です。すべての先生が仲良く、楽しい雰囲気の中でチームが生まれ、そのチームによって、生徒への有効な支援が生み出されるのだと思います。今後、「和」を大切にしながら、校内のリーダーとしてがんばっていきたいと思います。（中学校）
- 校内支援体制を作っていく上で、誰が推進しても機能するようなシンプルなシステム作りを目指していきたいと思います。取り組んだことがすぐに成果につながらなくても、やったことには意味があると考えながら、生徒のために、いろいろな関わりを試みていきたいと思います。（高等学校）

この研修をきっかけに、各学校において支援体制の一層の充実が図られることを期待しています。

○この通信に関する御意見・御感想をお待ちしています。入力・送信は [こちら](#) から

・センターホームページ（TOP）は、[こちら](#) ・学びの杜通信のバックナンバーは、[こちら](#)